



うべ環境コミュニティーの今後を考える

うべ環境コミュニティー 副理事長 津島 榮

当法人は宇部市まちなか環境学習館の指定管理に9年半従事した後、今年度より受託事業に切り替わり、事業も大幅縮小されました。この間、それなりの役割は果たしてきましたが、組織自立のための事業化の努力を怠り、結果的に組織の世代交替も進みませんでした。

今、求められることは、リスクを恐れることなく地域の課題解決に果敢に挑戦する姿勢・覚悟だと思えます。政府はSDGsで重点的に取り組む分野として農業、ゴミ、エネルギーとしています。私もこの分野で私達で結果が出せる取り組みは何かと常に考えています。例えば、①後継者が無く、継続が困難な農業の継承は大きな課題ですが、工夫次第で、ある程度の収入が当初から期待でき、比較的継承が容易と考えます。②ごみ分野においては、生ごみの堆肥化による食料資源のリサイクルが非常に重要です。困難な開発が欠かせませんが、時間がかかっても取り組む価値のある夢のあるテーマだと思います。③エネルギーについては、太陽光発電や、小水力など比較的取り組みやすい分野に可能性があります。十分とはいえないものの、我々も参画して非営利株式会社を設立し、市内の小中学校体育館7校に太陽光発電パネルを設置し発電しています。

このような状況下で、うべ環境コミュニティーとして、②の生ごみの堆肥化に取り組みたいと考えました。最近事業の妥当性・適切性評価方法として①E（環境）②S（地域課題解決）③G（統治）への適合という方法が、出資の妥当性を評価するための手法として広く用いられています。

この基準を用いて「生ごみの堆肥化によるリサイクル事業」を評価してみると、①E：現在多くの生ごみは、化石燃料を用いて焼却されており、多くの温暖化ガスの排出が軽減されます。また経費削減も期待できます。②S：現在肥料の3要素の一つであるりんは産出国が中国などに偏っており、入手が困難になっています。ドイツなどでは既に人糞、牛糞、鶏糞を重要なりん資源と考え、りん資源として回収し、肥料とすることが法制化され開発が進んでいて、生ごみを堆肥として圃場に返すことができれば、りん資源やミネラル類の循環に寄与し、持続可能な社会実現に大きく貢献します。③G：企業倫理、企業規範、情報公開の話ですが企業化に当たり十分心して進めていけばよい問題だと思います。このように生ごみの堆肥化リサイクル事業は高い事業評価が期待できます。

この様な開発テーマを掲げ、果敢に挑戦すれば必ず、物、金が集り、活躍できる団体になれると信じています。

地域猫活動＝地域の環境問題

茶トの会 代表 古屋 美由紀

地域猫活動とは、飼い主のいないねこへTNR（捕獲し、不妊去勢手術を行い、元の場所に戻す）を実施することで繁殖を防止し、「地域猫」として一代限りの命を全うさせ、地域ぐるみでねこ共生しながら見守っていく活動です。しかし、地域猫活動というと保護活動やTNRだけの活動だと思われている方もまだ多く、地域猫活動本来の目的が周知されていないのが現状です。

山口県では【地域猫活動は「ねこ」の問題ではなく、「地域の環境問題」として捉え、地域の皆さんの理解のもとで取り組むことが重要です（山口県HPより引用）】と位置づけているように、地域の皆さんの理解と行政の協力を得られなければ、私たちの活動は成り立ちません。そのためにも、多くの課題を乗り越えていかなければと思っております。

課題のひとつでもある、飼い主のいないねこに関する「ゴミや花壇が荒らされる」「鳴き声による騒音被害」「公園や私有地などへの無責任な餌やり」「ふん尿による衛生問題」などを【地域が抱える環境問題】として捉え、飼い主のいないねこを適正に管理し、ねこと人間が共生できるよう、ひとつひとつ課題と向き合っていかなければなりません。ふん尿問題の解決案として、許可を得た場所にプランターを活用した「地域猫トイレ」の設置も行っております。ねこはきれい好きで身体や居場所を汚さないため、一定の場所で排泄し、隠す習性があります。街中に地域猫トイレを増やすことが出来れば、自ずとふん尿問題も改善が見られるのではないかと考え、試験的ではありますが、

取り組んでいます。

また茶トの会では、地域の方や活動に賛同頂いている方たちと毎月第一土曜日に活動拠点を中心にゴミ・ふん拾い&ねこパトロールを行っています。昨年12月より宇部高等学校探究科の学生さんも参加されています。皆さんと一緒にゴミやふんを拾うことで地域の方たちとのコミュニケーションを深め、同時にねこパトロールを行うことで、ねこに危害を加える人間に対する抑止力にもなり、それが地域の治安維持にも繋がるのではないかと考えます。これらの活動を通じ、地域の方たちに地域猫活動へ賛同していただく『地域コミュニティの形成』を目指しております。

「ねこ」の問題ではなく、「地域の環境問題」として皆様にご理解・ご協力いただけますと幸いです。



茶トの会Instagram /



茶トの会
ChATonokai



自転車ナビマーク（青い矢羽根サイン）の意味を理解していますか？

うべ交通まちづくり市民会議 会長 村上ひとみ

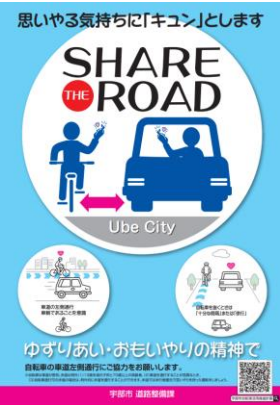
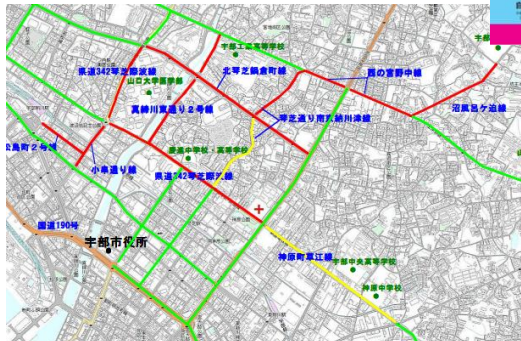
宇部市では多極ネットワーク型コンパクトシティを目指す中、2020年9月に自転車活用推進計画（自転車ネットワーク計画を含む）を県内市町に先んじて策定しました。2021年2月には、新型コロナウイルス対応の補助金も活用して、高校通学路を中心に、延長5.3km区間に、車道左側の青い自転車ナビマーク（矢羽根）が整備されています（写真）。既設の法定外自転車レーン（神原交差点～ユニクロの清水川交差点）や琴芝通り矢羽根表示が1.4kmあり、合わせて6.7kmとなっています。路上の案内が十分とは言えない中、車や自転車を運転しながら、「このマークは何だろう？」と疑問に感じる方も多いと思います。

道路交通法により、自転車は軽車両に分類され、車道の左側が通行位置となっています。1970年頃の車両交通量増加により、自転車の歩道通行が認められ、自転車歩行者道の指定が広がってきました。そのため、自転車は歩道を通るべきで、車道に出たら危ないとする市民、自動車運転者の方もおられると思います。

しかし時代は変わり、コンパクトシティを目指し、低炭素で健康に役立つ移動手段の支援が潮流となってきました。歩道には小学生や乳幼児、高齢者や障がいのある人達も歩いており、自転車が徐行せず追い抜く状況に恐怖を感じ、人身事故の危険が高くなっています。一方、自転車ナビマークを明示することで、今後徐々に、車道での自転車左側通行が広がれば、車との出会い頭など事故リスクが低くなります。宇部市では車が自転車を抜く時の思いやりと自転車への啓発ポスター（図）をつくり、車道での共存譲り合いを呼び掛けています。市民の理解と応援で安全な通学路、交通づくりを進めていきましょう。



うべこまち・自転車ブックレットより



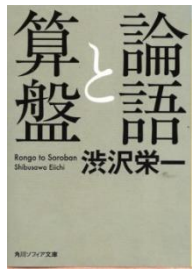
- R2以前整備済箇所
- R2工事施工箇所
- 未施工箇所

自転車ネットワーク計画(緑)と赤・黄色の整備路線(宇部市道路整備マップ一部掲載)

推薦図書コーナー

渋沢栄一「論語と算盤」 角川ソフィア文庫

昨年大河ドラマの主人公であり、明治・大正・昭和初期にかけて、第一銀行を始めとする500以上の企業の創業あるいは事業運営等に関わった渋沢栄一が道徳倫理の大切さを説かれた本です。明治維新の激動期に青年期を過ごされ、大蔵省の総務局長から30歳で実業界に転身された豊かな経験に基づく倫理観や処世訓が、わかりやすく編集され、紹介されています。論語やその周辺の儒教の教えを深く読み込まれ、宗教に対する考え方も現代人に近い合理的な見方をされているように感じます。歴史的な時代背景を反映して、富国強兵等、違和感を感じさせる部分もありますが、今でもというより難しい時代に直面する今こそ、世界中の企業経営者のみならず社会人も、勉強中の若い人達も是非読むべき本だと思います。（浮田）



イベントのお知らせ

特別サロン（2）リノベーションによる空き家活用の魅力「空き家はまちの隠れた宝」

講演：木村大吾さん（金剛住機（株）・一級建築士）
 コメンテーター：宋 俊煥（ソン・ジュンファン）さん
 ・日時：2022年 2月24日（木）18：00～20：00
 ・場所：ヒストリア宇部（宇部市新天町1丁目1-1）
 ・申込：氏名、連絡先、対面またはオンラインの別を環境学習館まで連絡。（資料代200円）・メ切2/21

2021年度第3回ESD研修会

講演：山口県における人づくりとESD推進について
 山口県人づくり財団県民学習部長 首藤 裕司さん
 ・活動報告： 県アクティブシニア協会・環境サポートメイツの会・うべ交通まちづくり市民会議
 ・日時：2022年3月5日（土）15：00～17：00 ・メ切3/2
 ・場所：宇部市立図書館2F講座室・参加費500円

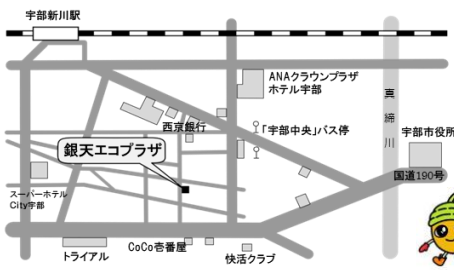
中川河口清掃 参加者募集！ （ヒノマイトンボ生息地）

・日時：2022年2月19日（土）9：00～11：30
 ・場所：中川河口ヨシ原 集合：中川河口ポンプ場駐車場
 ・問い合わせ：うべ環境コミュニティー
 ・申込：宇部市まちなか環境学習館へ（TEL 0836-39-8110 mail: ubekuru@gmail.com）・メ切：2月15日



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号
 交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分
 宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分
 駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）
 TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com
 開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>
 休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



NPO法人うべ環境コミュニティー